



郡山市の協議体

(令和5年3月1日 時点)



発行：郡山市

製作・編集：郡山市生活支援コーディネーター

(生活支援体制整備事業)

目次

○協議体とは…………… 2ページ

○郡山市の各協議体の活動状況

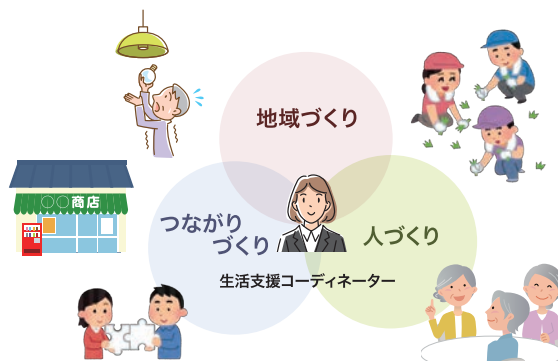
久留米地区……………	5ページ
大槻原田地区……………	6ページ
熱海地区……………	7ページ
大成地区……………	8ページ
名倉地区……………	9ページ
桃見台地区……………	10ページ
安積地区……………	11ページ
三穂田地区……………	12ページ
湖南地区……………	13ページ
西田地区……………	14ページ
日和田地区……………	15ページ
逢瀬地区……………	16ページ
東部地区……………	17ページ
中田地区……………	18ページ
開成地区……………	19ページ
片平地区……………	20ページ
大島地区……………	21ページ
田村地区……………	22ページ



南地区……………	23ページ
小原田地区……………	24ページ
緑ヶ丘地区……………	25ページ
喜久田地区……………	26ページ
富久山地区……………	27ページ
大槻地区……………	28ページ
小山田地区……………	29ページ
芳賀地区……………	30ページ
菜根地区……………	31ページ
芳山地区……………	32ページ
橘地区……………	33ページ
麓山・池ノ台地区……………	34ページ
薫地区……………	35ページ
希望ヶ丘地区……………	36ページ
金透地区……………	37ページ
赤木地区……………	38ページ
富田地区……………	39ページ
大槻東地区……………	40ページ

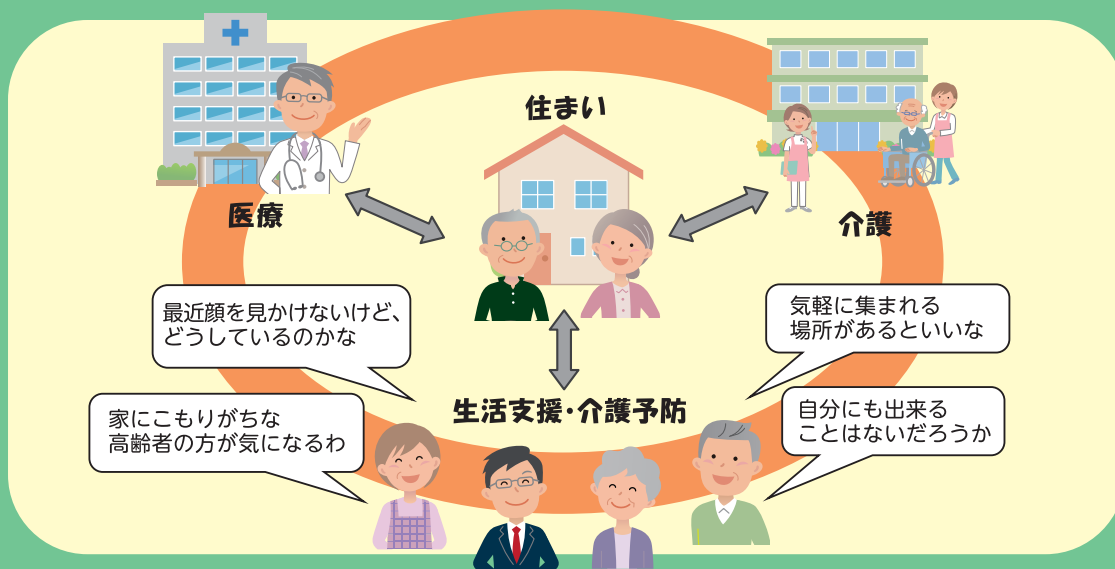
生活支援コーディネーターとは

生活支援コーディネーターは、地域支え合い推進員とも呼ばれ、郡山市社会福祉協議会が郡山市からの委託を受けて、住民のみなさんと一緒に、いつまでも住み慣れた地域で生活するための地域づくり推進活動を行います。



「協議体」とは…

地域住民の活動を知り、地域の「あったらいいね」を提案し、自分たちでできることを話し合う場



協議体の目的は… 地域みんなでやる、助け合いのまちづくり

元気なうちから、あるいは支援が必要になっても、地域に出て多世代の人とふれあい、助け合いながら、いきがいにもつなげていく、そんな基盤づくりを推進していくのが協議体です。

『自助』、『互助』、『共助』の力を組み合わせ、誰かの役に立てたり、生きがいを持って生活できるような、おたがいさまの仕組みづくりを郡山市では推進していきます。



地域のことについて話し合う

具体例

- ・閉じこもりがちの人が心配
- ・買い物に行けない
- ・電球の交換が出来ない

自分たちで出来ることを行う

具体例

- ・居場所づくり
- ・専門機関につなぐ
- ・ちょっとしたお手伝いを行う

暮らしやすいまちになる

具体例

- ・あいさつが出来るまち
- ・孤立しない
- ・向こう三軒両隣の関係



郡山市第2層 協議体設置状況 (令和5年1月31日現在)

平成30年度設置	令和元年度設置	令和2年度設置	令和3年度設置	令和4年度設置
① 久留米 ② 大槻原田 ③ 熱海 ④ 大成 ⑤ 名倉	⑥ 桃見台 ⑦ 安積 ⑧ 三穂田 ⑨ 湖南 ⑩ 西田 ⑪ 日和田 ⑫ 逢瀬	⑬ 南 ⑭ 小原田 ⑮ 緑ヶ丘 ⑯ 喜久田 ⑰ 富久山 ⑱ 大槻 ⑲ 小山田	⑳ 芳賀 ㉑ 菜根 ㉒ 芳山 ㉓ 橘 ㉔ 麓山・池ノ台 ㉕ 薫 ㉖ 希望ヶ丘 ㉗ 金透	㉘ 赤木 ㉙ 富田 ㉚ 大槻東

郡山市では、郡山市社会福祉協議会の
38ある地区支部社協のエリアごとに協議体の設置を
目指しています。

※地区に1つの協議体を立ち上げるのではなく、地区をさらにエリア分けし、町内会等の単位で協議体を設置している地区もあります。

一郡山市の概要一

本市は福島県の中央に位置し、東北地方で仙台、いわきに次いで第3位の人口規模を誇る、東北の拠点都市です。首都圏からのアクセスの良さに加え、鉄道や高速道路が縦横に交差するなど、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市、そして経済県都として成長を続けています。

古くは宿場町として栄え、明治時代の安積開拓、1924年の市制施行、1965年の大合併を経て、現在の形へと発展しました。

市内は本庁管轄区と14の行政区で構成されており、各地域には、それぞれの歴史と風土により育まれた個性豊かな特徴があります。



郡山市イメージキャラクター がくとくん



がくとくんの妹 おんぶちゃん

第1層協議体について

郡山市では、市内全域を対象とした第1層協議体を平成29年3月30日に設置しました。第1層協議体では、医療や介護、福祉、地域づくり等に関わる市内各種団体の関係者が集まり、第2層協議体の設置に向けた意見を頂いているほか、地域資源やニーズの共有が行われています。

	実施日	内容
平成28年度	平成29年3月30日	第1層協議体設置
平成29年度	第1回平成29年5月30日	地域包括ケアシステム、協議体等について情報共有
	第2回平成29年9月21日	第2層協議体の設置に向けた意見聴取(1回目) 第2層協議体の地区割について
	第3回平成29年10月26日	第2層協議体の設置に向けた意見聴取(2回目) 第2層協議体の地区割についてモデル地区の設定
平成30年度	平成30年6月6日	第2層協議体の設置について 平成29年度モデル地区の進捗状況把握 平成30年度設置促進地区の設定
令和元年度	第1回令和元年7月29日	第1層協議体の今後について 第2層協議体設置の進捗状況把握
	第2回令和2年3月11日 (書面開催)	第2層協議体設置の進捗状況把握 第2層協議体の活動を通して挙げた各種資源、 ニーズ・課題の把握
令和2年度	第1回令和2年10月1日 (書面開催)	第1層協議体構成員の保有する情報の共有、 資源の提供 今後の第1層協議体における取り組みについて
令和3年度	第2回令和3年2月15日 (書面開催)	コロナ禍における第2層協議体の活動及び設置に 向けた取り組みについて 今後の第1層協議体における取り組みについて
	令和4年2月16日(書面開催)	制度やこれまでの取り組みについての振り返り
令和4年度	令和4年8月23日 (対面とオンラインの ハイブリッド開催)	令和3年度第1回第1層協議体への意見 及び回答について 協議体と生活支援コーディネーターについて (振り返り) 郡山市第2層協議体の活動事例について (西田地区、菜根地区)

世代を結ぶ多彩な活動・心育む見守り活動



マップ作りで地域の変化を見逃さない



愛称
久留米
支え合いの会



気持ちには優しく、行動はさりげなく
当たり前前の精神で続ける地域

① 久留米地区

方向性や活動

協議体には、町内会長や民生委員、地域の各種事業所などが参加し、毎回「住民支え合いマップ」を囲みながら、地域の情報共有とともにマップの更新を行っている。

また、地域のスーパーが閉店した際には、民生委員の協力のもと、地域の高齢者の買い物についての意識調査を行った。

参加者の声

- ・コロナ禍だからこそ、情報共有することは大切だ。
- ・毎日の挨拶や声掛けを継続することが重要だ。近所付き合いを良くしている事が、犯罪の減少につながる。
- ・事業所も地域の一員として連携していきたい。
- ・いつも見守りに行くというよりは、気にすることが大事だ。
- ・見守りをしながら、信頼関係を築くために、今は外からの見守りに力を入れ連携強化が大切だ。
- ・子どもから高齢者まで、見守り活動を通してつながりあうことができる。



【地区の特徴】

福岡県旧久留米藩士が入植し、開墾したことから名前が付いた郡山市久留米地区。福岡県久留米市の産土神「水天宮」の分霊を勧請し、地域のシンボルとして祀っている。そこに隣接する大きなグラウンドは地域の大切な交流の場であり、新型コロナウイルスの感染拡大以前は、球技大会、盆踊り、運動会を開催し、子どもから高齢者まで大勢の方が参加していた。

また、災害に備え、毎年防災訓練を行っている。

取り組み

- ・「住民支え合いマップ」の作成
- ・買い物についての意識調査
- ・地域のこども食堂との情報共有



地域全体で集まり、
情報共有！



一緒に地域の
変化を
確認します！

『おたがいさま』の温かい気持ちが通う活動 団結力の強さで支え合う活動



協議体の愛称は
「はらだ結の会」に決定



協議体についてや地域の素敵な活動をチラシにして発行

② 大槻原田地区

昔から行っている活動を活かした
地域づくりをみんなが意識する地域

方向性や活動

大槻原田地区は地域における住民主体のたすけあいの活動、資源が豊富にあり、地域の課題に対しても「うちではこんな支援もできるからやろうか」といったようなお互いのできることを積極的に話し合うことが出来ている。それらを活かし住民主体で考えていける協議体にしていきたい。

地域の中でそれぞれがどのような活動を行っているのかを話し合うことで、地域の資源の確認が出来るので今後も協議体で様々な団体を巻き込んでの話し合いを行うことが必要。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により集まっての話し合いを行うことが難しい状況である。少人数で行っている活動を全体で情報共有していきたい。

参加者の声

- ・いきいき百歳体操の他、高齢世帯支援隊を立上げ、回覧板をまわし、電球交換など18件くらい対応している。
- ・「今出来ていることを知恵を出し合って周囲に広げていければ」「地元の方も施設に入っているの、夜の時間など施設で地域の方と交流できれば」



皆で意見を出し合って
話し合う事が大切



地域の笑顔のために
協力し合い活動



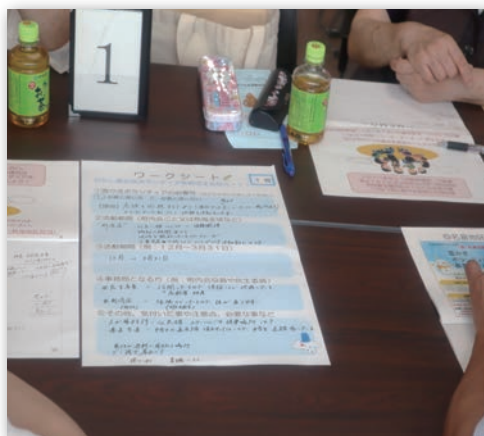
【地区の特徴】

20年ほど前から区画整理され、平成28年に完了した新興住宅街。

道路整備の進捗とともに、近年急速に町が発展し、町外へ通勤通学する方や転入者が増えたことから、住民の交流で融和を図るため、町内会が多くの行事を手がける。

高齢者や未成年者の見守り、地域での支え合いは重要と考え、高齢者世帯の支援隊による生活支援、介護予防体操と交流会、友愛訪問活動を実施し、交流を図っている。

各種団体と連携した地域活動 『今日行く場所』をつくり出す



グループごとに
ワークシートの記入



テーマに沿って情報共有

③ 熱海地区

『向こう三軒両隣』、人との交流を大切にし、
お互いさまの気持ちを忘れない地域

方向性や活動

熱海地区は積雪の多い地域であるため、以前から雪かき支援の課題があげられていた。そこで、「もし雪かきボランティアを結成するならば」と仮定し、どんな話し合いが必要になるか、地域住民約30名がエリアごとに分かれ意見を出し合った。

ほとんどの班で雪かきボランティアが必要と答える中、「既に近隣で助け合いが行われており、安否確認までできている」と答える班もあった。今後、それぞれの町内会に話をもち帰っていただき、実際に雪かきボランティアを結成する際には、活動の相談・サポートをSCが行っていく。

参加者の声

- ・公民館や停留所等、人が集まる場所も雪かきが必要では？
- ・通学路も雪かきがされておらず、車道を歩いている。
- ・隣の地区の区長が除雪機を使って雪をかいてくれている。
- ・ボランティアの方が除雪機を出してくれた際には、燃料費を出そう！
- ・学校に応援を依頼しても良いのかも。
- ・人材不足が考えられるが、ボランティア募集をすることで必要性を訴えよう。まずは情報共有が必要！
- ・区長が早朝から除雪してくれてとても助かっている。



【地区の特徴】

熱海町は郡山市西部に位置しており、気候は年間を通して涼しい。冬は郡山市中心部と比較して積雪が多く、強風の日も多い。また、緑豊かなため山林を近くに感じることができる。

磐梯熱海温泉を有することから郡山市の観光拠点の一つとなっている。

また、ユラックス熱海や石筵ふれあい牧場などもあり、子どもから高齢者まで楽しめるレジャースポットとなっている。



熱海地区では、自分たちの町を守っていくため、各種団体の皆さま以外にも地域づくりに関心のある“いち住民さん”が協議体に参加してくれています！

自分たちの手で創り出す、新しい地域づくり



大成地域力の発揮で
助け合い・支え合いの充実を！

方向性や活動

地域の30近くの多種多様な団体が協力し、今後構成員、サポーターとしてそれぞれの立場からできることを話し合い「助け合いを中心とした地域コミュニティづくり」を目標に地域福祉活動の充実を図っていく。

[大成地区協議体の目標 ~住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために]

- ① 人との繋がりによって、助け合い・支え合う地域共生社会の推進
- ② 地域のさまざまな課題を他人事ではなく我が事としてお互い様として解決できる環境づくり
- ③ 住民に寄り添って相談し支援する仕組みづくり
- ④ 構成団体や関係機関とのネットワークの構築
- ⑤ 分かり易い情報提供と福祉活動の啓発



参加者の声

- ◎ 一歩前に入る集会であって欲しい。
- ◎ 仕事をしているので、集まりが土日だと助かる。
- ◎ 地域の課題解決のためには、大成地域全体では地域が広すぎて具体化しないように思う。せめて、各町内単位ぐらいの組織体制のほうがいいのではないか。



④ 大成地区

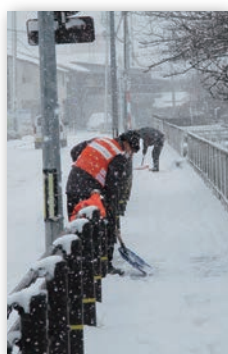
助け合い、コミュニティを
主体とした地域づくり

【地区の特徴】

大成地区は、郡山市のほぼ中央に位置し、住宅と商業施設等が混在している、都市化された地域。

また、通学区域になっている小中学校が5校、県立高校が2校、私立高校1校、大学が隣接する文教地区でもある。

楽しくトキメキを持てる活動 お互いにエンジョイできる活動



つながりづくりのエキスパート
名倉雪かき応援隊

各種団体の垣根を越えて
心は1つワンチーム

方向性や活動

雪かき応援隊も3年目となり、困った時にお互い様の関係や環境を築いてきた。平常時の見守り活動の見える化や、災害時への備えや危険箇所などを盛り込んだ「地域支え愛マップ」を、民生委員の担当地域ごとに作成。また協議体メンバー以外でも、ちょっとしたお手伝いを協力いただけるよう、消化栓、バス停、子どもの見守り危険箇所を見える化した、「名倉エンジョイMAP」を作成!!

名倉地域のみなさんに、「融雪剤の散布」や「ながら見守り」などのできる範囲でのご協力を呼びかけている。

今後は子どもから高齢者まで参加できる通いの場を開き、より顔の見える関係性を広げていきたい。

参加者の声

- ・顔の見える関係性が築けると、普段との違いに気づくことができ、異変を感じたら、民生委員や関係機関などに相談できるよね。
- ・手を挙げられない方にこそ見守りが必要で、サロンなどに参加されない方と、どのように関わっていくかを考えないといけないね。
- ・隣近所で目が届く、おたがいさまの環境づくりを目指したいよね!!
- ・普段の生活の中で、ながら見守りしてくれる方が増えると助かる。

取り組み

- ・住民主体による雪かき活動
- ・高齢者を見守る支え愛マップの作成
- ・支え愛を広げるためのマップ「名倉エンジョイMAP」の作成



「名倉エンジョイMAP」

⑤ 名倉地区

援助される方も
援助する方も気持ちよく

名倉エンジョイ

【地区の特徴】

名倉地区は名倉、賀庄、久留米地域の一部で構成され、地域の中心には公民館があり、幅広い世代の集いの場となっている。五百淵公園に隣接し、郡山市内屈指の豊かな緑に包まれた地域である。

運動会や納涼盆踊り大会には350人が集う。コロナ禍でもクリーン作戦は継続されており、地域住民が一体となって、地域の流れる南川土堤や名倉公園の除草・清掃に汗を流し協力しあって活動している。学校、病院、スーパーが近隣にあり、利便性が良い。

みんなで仲良く、まずは班で仲良く！ つながりづくり

つなごう桃見台プロジェクト

～令和3年度活動報告～

令和3年 4月 1日	つなごう桃見台プロジェクト実施
2日	つなごう桃見台プロジェクト実施・贈呈式 2,801品の食料品・日用品・学用品が寄せられ郡山市社会福祉協議会へ贈呈
4月 7日	桃見台方部民生児童委員協議会の協力を得て桃見台地域の中で必要としている方々へ配布
10日	11日
6月 1日	「こおりやま社報ニュース」に活動内容が掲載
8月31日	4月以降も継続的に日用品等が寄せられ郡山市社会福祉協議会へ贈呈
12月15日	郡山市自治会連合会「食糧 まち」に活動内容が掲載
令和4年 2月	第3回「こおりやまSDGsアワード」受賞(地域貢献特別賞)
3月25日	継続的に食料品・日用品・学用品が寄せられ郡山市社会福祉協議会へ贈呈
随 時	関成山大神宮 ダイバーシティこおりやまへ贈呈

「もったいない」を「ありがとう」に・・・！！コロナ禍の中でも、私たちにできること



「もったいない」を「ありがとう」に・・・！！
コロナ禍の中でも、私たちにできること

方向性や活動

「コロナ禍で生活に困っている人へ、自分達にできることはないか」「家庭に眠っている食料品や日用品を集めよう」という思いが集まり、地域の各種団体が協力しあい、多くの寄付物品が集められました。

参加者の声

- ・色々な方々とつながり合うことがいざという時のために大切！
つながりづくり＝地域づくり！
- ・こんなにたくさんの物が集まって感謝の気持ちでいっぱいだ！

取り組み 「つなごう桃見台プロジェクト」の実施



地域のみなさんから



地域の高齢者や
子ども食堂等へ

【地区の特徴】

郡山市の中心部に位置し、行政機関・医療機関・商業施設が充実している。東西南北に、主要幹線道路があり、交通機関の利便性も高く、郡山駅にも近い。地域の中には保育所・小学校・中学校・高校があり遊歩道「せせらぎこみち」など自然豊かな環境である。

その昔、現在の桜木一丁目のあたりに、「郡」と呼ばれる、この地方をまとめる役所のような役割をしていたところが置かれたことから、「郡がの山」と呼ばれるようになり、それがやがて「郡山」という地名になったと言われている。その後、その場所に郡山城が建てられた。この郡山城を守るため、現在桃見台小学校がある高台のあたりに「もの見」が置かれるようになり、「もの見台」と呼ばれこれが転じて、やがて「桃見台」という地名になったとのこと。

⑥ 桃見台地区

「心と心の交差点」
笑顔いっぱい 桃見台

どんな時も、オールあさか みんなの力で！



人を知り！地域を知り！地域ぐるみで・・・😊

方向性や活動

これまで安積地域包括支援センターが中心となり、「安積町地域の支え合いを考える連絡会」を平成27年から継続的に開催してきた。今後は、生活支援コーディネーターも連絡会やエリア会議に参加し、地域の現状を把握しながら情報提供やニーズの発掘を行い協議体の要素も含めて運営していくこととなった。

参加者の声

- ・食料品を購入する場所が少なく、高齢者にとっては移動の手段もないため年々住みにくくなってきているエリアや、買い物・病院・金融関係は地域内で解決できるため長く住み続ける方が多いエリアがある。
- ・サンステージやガーデンシティは40代～50代が多いため将来は高齢化の地域になっていくのではないかと。
- ・若い世代に対して合同サロンを企画するなど世代間の交流を図ることで若い世代の方を取り込んでいきたい。
- ・1人暮らし高齢者への配食は、喜ばれる。どこまで踏み込んでよいか分からない。高齢者は、閉じこもりがちになるため訪問するとお話しがしたいそうだ。

取り組み 安積町の30町内会を7つのエリアに分け、それぞれにエリア会議を開催し、年に2回程度全体会を行う。



みんなで地域づくり
新たな地域文化の創造と出会いと交流のまち

7 安積地区

【地区の特徴】

郡山南インターチェンジ、県道17号主要地方道郡山停車場線(旧国道4号線)及び国道4号をつなぐ郡山南インター線が整備され、交通の利便性がとてもよい。

まちを東西に流れる笹原川の川沿いには桜並木があり、春には満開となるため地域の観光地となっている。低地部は、農地としての土地利用も進められ、商工業ともバランス良く発展している。

ビッグパレットふくしまや遊園地があり、あさが野夏祭り花火大会も夏の風物詩もなっている。成山公園、阿武隈川、笹原川など自然豊かな環境が多く残されている一方で、医療機関・商業施設も充実している。

住民同士で支え合い、つながり合う地域活動



三穂田地区について情報共有！
各種団体との横のつながりを更に強化！



各区でマップを作成
地域の変化を見逃さない！

⑧ 三穂田地区

頼ってくれてもいいべした
お隣さんだからさすけねえ

方向性や活動

異常気象や新型コロナウイルス感染拡大で、みんなで集まる事が出来ないこんな時だからこそ、地域を見つめなおし、自分たちのできることに取り組む。日常の見守りや災害時に備えてマップを作り、見える化していく。

また、各種団体等と連携をし、更に横のつながりを深め、住民同士での助け合い・支え合いを強化していく。

協議体の愛称は「三穂田地区もっとつながっばい大作戦」に決定！

参加者の声

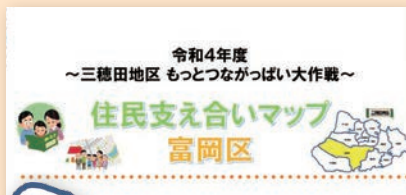
- ・住民支え合いマップを作成したことで、自分の住んでいる地域についてみんなで再認識・把握することができた。地域を見直す良い機会となり、マップを定期的に更新することが大切だね。
- ・「高齢者の増加」「担い手不足」「移動手段」「空き家問題」等の課題がある。
- ・前回のグループワークから「地域でできていること、できそうなこと」「地域にあったらいいな」について話し合い。
→「子どもや若い人とのつながり」「移動支援」「集まる場所や住民とのつながり」の3つの意見が出ており、できることから今後の活動につなげていく。

取り組み

- ・「住民支え合いマップ」を区ごとに作成
→協議体を通して、それぞれの区だけではなく三穂田地区全体として情報共有を行う。

地域全体でつながり合う
三穂田地区 全12区

地域を見える化し、
日頃の見守りや災害時に活用



【地区の特徴】

三穂田町の由来は、旧三和村と旧穂積村、旧豊田村の川田部落が合併し、各地名から1文字ずつ取られて名づけられた。町内は12の区に分かれ、平野部・山間部それぞれの特色を生かした産業が盛ん。

笹原川にかかる明神橋を中心に上下約2kmにわたる桜並木「笹原千本桜」や明治初期から続いている伝統の「唐傘行灯花火」が盛大に開催されるなど、自然と伝統にあふれている。

子どもからお年寄りまで、みんなが「地域の宝」です!! みんなが安心して暮らせる地域を目指します。

湖南中野地区協議体の愛称が決定しました!!
「中野結(ゆい)クラブ」
～1人ひとりを結んで輪になろう! 輪を作ろう!～



2022/02/04

様々な形で助け合い活動が行われています!

支え合いや助け合いが根付いている素敵な町、湖南。
横の繋がりを強化して、地域力を高めていきます!

9 湖南地区

方向性や活動

困りごと調査アンケートの結果を基に今後協議体で話し合いを行っていく。
住民から協議体の在り方についての質問があったため、民生委員を連絡窓口とする「湖南中野地区第2層協議体の全体図」を作成した。

参加者の声

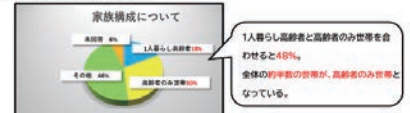
- ・近所に雪かきをお願いできる人がおらず、遠方の親族にお願いしている。
- ・少子高齢化により区の行事や、普請作業が困難になってくる。
- ・日常生活に必要な生活物資の確保や医療を受けることが難しい。
- ・高齢者のみ世帯や一人暮らし世帯が増えているので、気楽に話ができて交流する場がほしい。
- ・身体が動かなくなってきたときに出不足金が払えるか心配。

取り組み

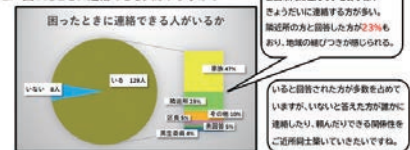
- ・困りごと調査アンケートの実施



1. 家族構成を教えてください。



2. 困ったときに連絡できる人はいませんか?



地域の方の声を基に、よりよい中野地区を目指して話し合いを進めていきます!

【地区の特徴】

磐梯山を正面に猪苗代湖の南側に位置し、月形・中野・三代・福良・赤津の5集落から成る。

戦国時代ごろから白河街道が通り、赤津、福良、三代地域には宿場町が置かれて栄えた。1962年に旧三森トンネルが開通して郡山市側へのアクセスが大幅に改善した。奥羽山脈により郡山市の他地区と隔てられており、気候的には会津地方と等しく郡山市内で唯一豪雪地帯に指定されている。

布引高原は「風の高原」ともよばれ、33基もの風力発電用風車が建設されており、高原から猪苗代湖と磐梯山を望む眺望と、猪苗代湖から眺める高原と風車群は、湖南町の魅力となっている。

高齢者が安心して免許返納できる地域づくり



第5回協議体
アンケート結果報告



第6回協議体グループワーク
「通いの場」について意見交換

10 西田地区

優しい気持ちがたくさん集まる、
ささえあいの町

方向性や活動

活動テーマ『高齢者が安心して免許返納できる地域づくり』をもとに、乗合タクシーを地域住民に浸透させるため、住民自身に利用してもらいその様子を取材し地域へ広報を行った。

また、日常生活の楽しみについての意見が挙げられたことから、協議体として「通いの場」についてのアンケートを実施した。

さらに、西田地区にある高齢者を対象とした通いの場を調査したものを冊子にまとめ、地域住民に広くお知らせした。

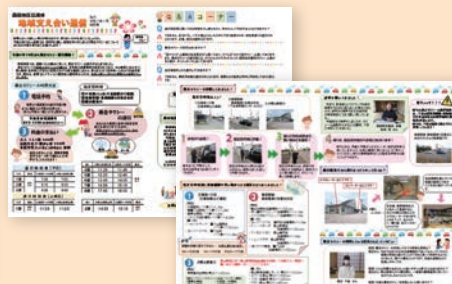
参加者の声

- ・区の皆さんに「通いの場」として集会所などを使ってもらう事には賛成。
- ・百歳体操などの内容が分からないため、実際に体験できる機会があると、通いの場への関心が高まるのではないかな。
- ・「通いの場」へ通い始めるきっかけが大事である。
- ・自力で会場に行けないという問題がある。



取り組み

- ・乗合タクシーの取材と紹介
- ・西田地区にある通いの場一覧の作成



西田地区にある通いの場
一覧を配布

チラシで乗合タクシーについて
地域へお知らせ

【地区の特徴】

西田町は、阿武隈川を渡って東北の阿武隈山系に位置する山里の地域。

町の東部には、約300年続く三春人形の里「デコ屋敷」があり、その近くには画聖雪村周継ゆかりの雪村庵があるなど、城下町らしい文化が残り、多くの観光客が訪れる。

自然豊かで、冬、雪化粧した安達太良山が澄んだ空気の中に際立ち、春になると、紅白の梅の花々が良い香りを漂わせ、町中の立派な一本松の桜が里の春を彩る。

温故知新を大切にするまちづくり



地域の課題、
地域団体の活動を見直す



小中学校の校長先生にも参加して
もらい子どもたちの課題も把握

多世代の交流を活発に！
子どもたちの声が聞こえる誰もが住みやすい町に

11 日和田地区

方向性や活動

「子どもたちの声が聞こえる町」をテーマに、子どもたちが安心して登下校できて、地区に住む高齢者も元気に過ごせる見守り活動はどんなことができるか、住民（活動者）の負担なく続けることが出来る活動を目指して話し合いを続けている。

日和田町で活躍する各種団体が連携、情報共有をし、より良い日和田町を作っていく。



参加者の声

- ・現状やっていることにプラスしてできる事をやっていきたい。
- ・誰とでもあいさつができる町会を目指したい。
- ・いつもの顔ぶれではなく様々な人が参加できる場にしていきたい。
- ・学校側の課題も共有でき、いい場になっている。

取り組み

- ・団体・事業所ガイドの作成
- ・危険箇所の取材と地域への周知



通学路の危険箇所を通信で地区に発信

【地区の特徴】

国道288号線、国道4号バイパス、東北縦貫道・磐越道インターチェンジなどの幹線道路が東西南北に通り、「郡山市の北の玄関口」といわれる交通要衝。土地区画整理事業による住環境の整備及び大型ショッピングセンターの整備に伴い人口が増加している。

また、松尾芭蕉が「奥の細道」行脚の際に、花かつみを尋ね歩いたことなどから、市の花である「花かつみの里」として、花かつみの普及に努めており、水・緑・花があふれる。

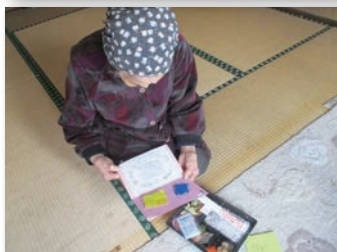
子どもからお年寄りまで固く繋がり、 心豊かなまち



お弁当に多田野小学校の児童からのお手紙を添えて、高齢者の皆さまへお届けしました。気持ちのこもったお手紙に心もほっこり！



定期的に訪問活動をしています。
会うと自然と笑顔に・・・素敵な関係ですね！



方向性や活動

令和3年12月の協議体では「一人暮らし・日中一人暮らし高齢者の方とどのように関わり、見守っていくか」をテーマに話し合いが行われ、声かけや見守りマップの作成、集いの場があると良いなど様々な意見が挙げられた。

住民一人ひとりが見守りの意識を持った地域であるよう、できることから取り組んでいく。



参加者の声

- ・逢瀬では高齢者の安否確認として訪問や電話連絡を行っている。
- ・月に一度、老人クラブの新聞配りを行い、声かけをしている。
- ・一人暮らし高齢者宅の、カーテンや雨戸が開いていないか確認し声かけをしている。
- ・転入者が多くいるが、顔を合わせる機会が無く、お互いに顔を知らない。
- ・高齢者同士で安否確認ができるような通いの場を作ってはどうか。
- ・1カ所に集まることは難しいため小規模の集いの場があるとよい。



グループワークでの活発な意見交換



協議体の様子



多田野鍬柄舞田植踊りの伝承

12 逢瀬地区

世代を超えてつながる
チャレンジ精神旺盛な地域

【地区の特徴】

逢瀬町は、郡山駅から西へ11km「陸の松島」と呼ばれる、名勝地「浄土松公園」をはじめ、「清水池公園」など多くの文化財が残る自然豊かなまちである。

また、江戸時代元禄の頃、豊年を祈願して始まったと伝えられる「多田野鍬柄舞田植踊り」は地元のお年寄りから中学生へ伝承されるなど世代間交流が盛んである。

住民同士の絆で、優しい見守り活動

13 東部地区

おたがいさまの気持ちで
温かく見守る地域



子どもたちが安心して暮らせるまちづくり



健康な心と体を作るために

方向性や活動

- 各部会の活動や、通いの場を通して地域の現状を把握し、課題やニーズを発掘していく。
- 関係機関とも連携をとりながら、地域住民との話し合いの場を増やしていく。
- コロナ禍により開催できなかった認知症サポーター養成講座を町内会やサロン単位で開催していく。更に住民のニーズに沿った勉強会を開催していく。



参加者の声

- ・住民同士で支え合いとつながりによる情報を共有し、お互い様の気持ちで取り組むことができるように心がけ、温かい目で見守りサポートしていく。
- ・今後家族が認知症と判断された時に、受講して学んだことを活かしてサポートしていきたい。

取り組み

- ・町会単位の認知症サポーター養成講座の開催

【地区の特徴】

東部地区は、郡山市の東側に位置し、阿武隈川沿いの地域では、明治時代から伝統野菜の『阿久津曲がりねぎ』が生産されている。

地区内にあるJR舞木駅構内には大小約30本の桜があり、見頃になる時期にはライトアップされているため、電車とライトアップされた桜を写真に収めようと、たくさん見物客が訪れる。



生活支援コーディネーター

地域の活動をSCが地域へお知らせ！



今ある活動を更に充実させていくための活動



R4.9.15 協議体開催
「乗り合いタクシー」説明会



中田地区協議体地域支え合い通信の発行



中田地区にある団体や
事業所をまとめた冊子の作成

方向性や活動

- 令和3年度に行った『生活支援・介護予防に関する実態調査』のアンケート結果から地域の高齢者ニーズを読み取り、それぞれの課題に合わせた講習などを行っている。
 - ゴミ捨てや掃除の問題…令和3年11月に日常生活のちょっとした困り事を地域住民同士で解決し合う仕組みづくり、有償ボランティア事業「たすけあい活動助っ人隊養成講座」を開催。助っ人会員が3名に増員。
 - 通院や買い物への移動の問題…令和4年4月から中田地区においても乗り合いタクシーの運行が開始となったことから、乗り合いタクシーを地域に広く知ってもらうことを目的とした、説明会を開催。
- 今後の地域づくりにおいて、日頃から地域活動に積極的に取り組んでいる各種団体を理解することが必要不可欠との意見から、中田地区にある団体や事業所をまとめた「中田地区団体・事業所ガイド」を作成。

参加者の声

- ・話し合えて出来ることからやってみよう。自分の出来ることを探したい。
- ・すでに地区社協や自治会、民生委員が中心となり通いの場が活発に開催されているが、その活動をより充実させていく活動、昼間のサロンには足が向きにくい男性には男性ならではの集まりをしてコミュニケーションをとってもいいと思う。
- ・中田の地域性、団結力を活かして地域をもっと元気に！若い世代の人たちも中田に住みたいと思えるような魅力を感じる地域をつかっていきたい。

取り組み

- ・「たすけあい活動 助っ人隊養成講座」の開催
- ・「中田地区団体・事業所ガイド」の作成
- ・地域住民への「乗り合いタクシー」の説明会の開催

14 中田地区

団結力を活かして地域をもっと元気に！

【地区の特徴】

郡山市の東の玄関口に位置する農業が主産業の自然と文化が香る人口約4,000人の町。

1956年(昭和31年)に宮城村と御館村が合併し中田村が発足、1965年(昭和40年)に郡山市に合併される。

豊かな自然に恵まれた地には、歴史を感じる伝統芸能・文化が多く残され、江戸時代から続く「柳橋歌舞伎」や「海老根手漉き和紙」等が中田町ならではの風物詩となっており、春になると鮮やかな花をつける「紅枝垂れ地蔵桜・ハナモモ回廊」は大勢の花見客で賑わい、憩いの場所になっている。

工夫を凝らしたサロン活動 事業所と連携した地域づくり



危険箇所マップの作成

地域づくりについて
知識を深める

開成地区に住んでいるからこそ知っている危険、日頃から訪問活動を行っているから気づいた危険等、SCだけでは気づけない危険を教えてくださいました！

方向性や活動

協議体の開催を通して、「方法によって見守り活動を行うことは比較的負担が少なく、関心のある方が多い」ということが分かり、見守り活動に関連して、危険箇所についての情報共有（危険箇所マップの作成）を行った。今後、見守り活動を行う際に活用していただけるよう、完成した危険箇所マップをもとに冊子を作成し、参加者の皆さまへ配付した。

また、開成小学校に再度ご協力いただき、先生方に冊子を配付するとともに、開成小学校が年に一度更新している危険箇所マップに高齢者目線の危険箇所も反映していただくこととなった。

枠にとらわれず、地域住民の他、小学校や銀行、事業所など多職種の方々にもご参加いただいている。

参加者の声

- ・協議体に参加後、地域の危険を気にするようになり、危険箇所を発見したので市に連絡し、すぐに対応していただいた。
- ・回覧板を見ると、“町内会にある危険な箇所を修復してもらうためご迷惑をお掛けしますが、ご協力願います”と危険箇所の地図を添付したものがまわってきました。

取り組み

- ・危険箇所マップの作成



15 開成地区

郡山市の中心地でありながら、昔からのご近所付き合いが残る地域

【地区の特徴】

国道49号線及び県道6号線郡山湖南線（文化通り）が通っており、交通の利便性が高い地区である。また、区域内及び隣接区域には、大学、高校、小・中学校などの教育機関、公園、スポーツ・文化施設、病院、市役所などがあり、生活環境は良好である。

幹線沿いには、商店、各種事業所があり、アパート、マンションのほか、昭和30年代以降他地区から移り住んできた住民の戸建ても多い。